

地域に寄り添い、街とともに考える、コミュニケーション誌

JFM だより

Vol. 43

September
2022

岩手県
宮古市

地域住民の行動範囲を広げる、 駅併設の新庁舎



INDEX

- 01 融資がつむぐまちづくり
- 05 地域のために がんばる公営競技
- 07 JFM TOPICS
- 09 利用してみよう! 地方支援業務
- 11 みんな気になる、お金のこと
- 13 わたしのシゴト わたしのジモト
- 14 機構からのお知らせ
- 15 20年第100回地方公共団体金融機構
債券の発行にあたって
- 15 私たちもJFM債買っています!!
- 15 編集後記



金融で地方財政を支え 地域の未来を拓く

地方公共団体金融機構
Japan Finance Organization for Municipalities

JFMの貸付事業

JFMでは、長期かつ低利な資金を地方公共団体に融資することで、地方公共団体の財政の健全な運営及び住民福祉の増進に貢献しています。

詳細はp.03



TAROU SOUGOU JIMUSHO CHOUSH A

田老総合事務所庁舎

東日本大震災により大きな被害を受けて以降、
着実に復興の歩みを進めてきた宮古市田老地区。
このまちの行政サービスの拠点となっているのが
三陸鉄道リアス線新田老駅と併設する
「田老総合事務所庁舎」です。





庁舎入口の庇* 多く人の目に触られる庁舎入口の庇には、温かみのある木材を使用しています。



1階フロア* 庁舎内に点字ブロックを設置し、目の不自由な方でも利用しやすいよう配慮しています。



受付窓口* 戸籍・住民基本台帳・国民年金・市税・保険等受付・医療給付・福祉・相談窓口などの各種行政サービスを提供しています。



エレベーター* 旧庁舎にはなかったエレベーターを設置するなど、バリアフリー化が図られています。



スロープ* 庁舎入口にスロープを設置し、車椅子の方でもご来場いただきやすい施設になっています。



レンタサイクル* 自転車の貸し出しサービスを実施しており、観光客の方々などに好評いただいています。



連絡通路* 施設の3階には新田老駅のホームに直結する連絡通路があり、庁舎から雨に濡れずに電車を利用することができます。



毎年11月下旬に開催される田老地域の一大イベントが「鮭・あわびまつり」です。多い年で2万人を超える来場者があり、地域外から新田老駅を利用して訪れる方も数多くいらっしゃいます。

鉄道駅と併設した行政サービス拠点

平成23年3月11日に発生し、東日本を中心に各地に甚大な被害をもたらした東日本大震災。三陸沿岸に位置する宮古市田老地区も、この未曾有の災害により大きな被害を受けました。以降、住民の減少や、震災を機に整備された交通ネットワークなど、地域の環境が大きく変わる中、令和2年5月18日に田老総合事務所庁舎は供用開始しました。

同じ日に開業した三陸鉄道リアス線新田老駅との複合施設であることが、この庁舎の最大の特徴です。地域の新たな玄関口となる鉄道駅と併設し、商工会議所の支所や金融機関も入居することで、住民生活の利便性の向上が図られています。また、旧庁舎にはなかったエレベーターやスロープなどを設置するなどバリアフリー化に努め、障がい者や高齢者も利用しやすい施設になっています。さらに、庁舎入口の庇や外部通路部、3階ホールに木材を多く使用。温もりと親しみのある施設となるよう設計されており、令和2年度「いわて木材利用優良施設コンクール」において、奨励賞を受賞しています。

田老総合事務所概要 所在地:岩手県宮古市田老1-3-4 / 供用開始:令和2年5月 / 敷地面積:593㎡ / 構造:一部3階建、鉄筋コンクリート造(一部木造、鉄骨造)

地域住民の行動範囲を広げる、駅併設の新庁舎

令和2年5月、三陸鉄道リアス線新田老駅との複合施設として

供用開始した田老総合事務所庁舎。

同事務所の所長を務める齊藤清志さんに建設の経緯などを伺いました。



宮古市 企画部 田老総合事務所

齊藤 清志 所長

▶▶ 安心感と信頼性のあるJFMの融資を活用

宮古市は平成の大合併の中で、新たな地域発展の飛躍を図るため、平成17年に宮古市と田老町、新里村の3市町村、そして、平成22年に宮古市と川井村の合併を経て、現在に至っています。旧田老庁舎は昭和46年に建設された施設で老朽化が進んでおり、耐震強度の面でも問題を抱えていました。耐震改修を行うことも検討しましたが、築年数が経過していることや、市町村合併により、庁舎に勤務する職員が減少したことに伴い、適正な施設規模での維持管理が必要であったことなどから、移転のうえ、新庁舎を建設することとなりました。

JFMの融資を活用した理由は、庁舎の整備であり償還年数が長くなることから、低金利かつ長期的に利用できる融資である必要があったからです。さらに、金利リスクの軽減に努めるなど組織としての安心感もあり、普段の借入業務でも親身になってご対応いただくなど信頼性が高かったことも要因となりました。

▶▶ 地域住民の生活や心の支援の一翼を担う施設

東日本大震災により発生した津波は田老地区に大きな被害をもたらし、1,000棟を超える建物が被害を受け、浸水区域内の建物の80%以上が流失または撤去となりました。新庁舎を三陸鉄道リアス線新田老駅との複合施設とした理由も、津波被害により地域住民の住宅立地場所が大きく変化したため、地域住民の生活の利便性を高める必要があったからです。

宮古市では震災以降、復興に向けた取組を一つひとつ着実に進め、ハード事業は概ね終了しました。しかし、被災者の生活に関わる支援や心のケアはこれから先も継続していかなければなりません。田老総合事務所庁舎は、そうした地域住民の生活や心の支援の一翼を担う施設だと考えています。現に、新庁舎及び新田老駅が完成したことにより、三陸鉄道を利用して外出する地域の方が増えてきており、地域住民の行動範囲が広がるきっかけとなっています。これからも地域の方々の生活を支え続けていきたいと思ひます。



* 三陸鉄道利用者ノート

新田老駅のホームに直結する連絡通路付近には三陸鉄道利用者ノートが置かれています。地域の方々や観光客など新田老駅を利用する方々のコメントが寄せられています。

本件で活用いただいた制度

合併特例事業

合併した市町村が行う市町村建設計画に基づく事業や、都道府県の構想に位置づけられた市町村の合併に伴い必要となる事業です。上水道、下水道及び病院事業について、合併に伴う増嵩経費に対する一般会計からの出資や市町村振興のための基金造成等も対象となっています。

JFMスタッフ Message

田老総合事務所庁舎移転にあたりご活用いただいた合併特例事業につきましては、令和3年度は、JFMから全国の地方公共団体に対し、総額914億円の貸付けを行いました。JFMでは、電子申請・通知システムによる借入申込事務のオンライン化により、効率化に取り組んでいます。借入事務にあたり、ご不明な点などありましたら、お気軽に融資部各都道府県担当までご相談ください。よろしくお願ひいたします。



融資部融資課 岩手県担当
輿石 大地

岩手県宮古市のまちづくり



「産業振興」と「教育振興」が市の最重点施策です。

宮古市は東日本大震災により多大な被害を受け、多くの尊い命や貴重な財産が失われました。以降10年以上にわたり復興へ向けた取組を計画的に進めているものの、さらなる市の発展のためには、潤いのある豊かな生活を安心して営むことができるまちづくりや、地域社会を担う多様な人材の確保、魅力ある就業機会の創出などの取組が必要です。現在では「産業振興」と「教育振興」を市の最重点施策として位置づけ、市民が安定した仕事をもち、子どもを幸せに育てられる環境づくりを推進しています。

行政 Pick Up !

「浄土ヶ浜のいいイロ」プロジェクト

シティプロモーションの一環として、地域資源を「地域色」と定め、活用を広げる取組を行っています。令和3年度に市民参加型で「浄土ヶ浜」をテーマにした「浄土ヶ浜エターナルグリーン」を地域色として決定し、宮古市の魅力を全国に発信しています。



庁舎探訪

宮古市役所の庁舎を訪問しました。職員の皆さまの業務の様子などをレポートします。



平成30年に市本庁舎、保健センター、市民交流センターからなる複合施設「イーストピアみやこ」が開設。防災・市民サービス・賑わいの拠点となっています。



お子さんも安心して遊べる「ふれあいひろば」をはじめ、さまざまな市民向けの設備を設置しています。



宮古市 総務部 財政課と観光課の皆さん



宮古市は本州最東端に位置し、ご当地グルメの「瓶ドン」や、「浄土ヶ浜」「三王岩」といった景勝地が全国的にも有名な観光資源に恵まれたまちです。田老地区で実施している「学ぶ防災ガイド」をはじめ、震災の教訓を後世に伝える取組にも注力しています。



[人口]

48,310 人



[世帯数]

23,023 世帯



[面積]

1,259.15 km²

(令和4年9月1日現在)



宮古の代表的な景勝地
「浄土ヶ浜」



テレビやSNSで話題沸騰
「瓶ドン」



圧倒されんばかりの壮観さ
「三王岩」



令和4年7月運行開始の遊覧船
「宮古うみねこ丸」